

Art Brut International Forum



アール・ブリュット国際フォーラム



2018

2018年2月9日〔金〕-11日〔日〕

<http://www.no-ma.jp>

びわ湖大津プリンスホテルコンベンションホール 淡海



平成29年度文化庁
地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

主催：アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会 構成団体：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA (社会福祉法人グロー〔GLOW〕)、滋賀県(県民生活部文化振興課/健康医療福祉部障害福祉課)、滋賀県立近代美術館、近江八幡市、一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人愛成会、NPO法人はれたりくもったり、滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会

ASIAcenter
JAPAN/CHINA/INDONESIA



会場へのアクセス | 滋賀県大津市におの浜4-7-7



【交通のご案内】JR「大津駅」から無料シャトルバスで約10分。湖西線「大津京駅」からタクシーで15分。JR「大津駅」からバスで12分。(なぎさ公園線・有料)タクシーで約10分。
【車をご利用の場合】名神高速道路大津I.C.より3.7km(平常時約10分)。京滋バイパス石山I.C.から422号経由で6.9km(平常時約15分)。※駐車場は台数に限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。

「展覧会」アール・ブリュット魅力発信事業 公募キュレーターとの共同制作による企画展

共融地点

日本と中国のアール・ブリュット

2018年2月9日〔金〕-11日〔日〕 9:00-21:00〔最終日は14:00まで〕

会場 | びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール 淡海

入場料 | 500円 ※アメニティフォーラム22参加者無料/中学生以下、障害のある方と付添者1名無料

出展者 | 石原峯明、呉美飛(ウー・メイフェイ)、川上建次、草薨陵太、郭秀榮(グオ・シウロン)、郭鳳怡(グオ・フォンイー)、瀧田真一、三毛(サンマオ)、小燕子(シャオイイエンズ)、健健(ジェンジェン)、陳宝桂(チェン・バオグイ)、喬雨龍(チョウ・ユロン)、祝羽辰(ヂュ・ユウチェン)、土屋正彦、塔本シスコ、西之原清香、林田嶺一、巴子(バズ)、東本憲子、平野智之、藤野公一、舟橋慶、鳳英(フォンイン)、本城直、宮川隆、宮田英雄、楊伝鳴(ヤン・チュアンミン)、与那覇俊、李忠東(リ・ジョンドン)、羅秀芳(ルオ・シウファン)、汪化(ワンファ)

「MOTTO! 共融地点」 日中のアール・ブリュットが一堂に会す共融地点。本展の作者の表現を、もっと深く知るため、会場では作者の創作を体験できるワークショップを実施したり、関連書籍を自由に読むことのできるライブラリーコーナーを設置します。この機会に、もっと(MOTTO!)共融地点をお楽しみください。

障害者の芸術文化について考える3日間

今年も日本国内外において
障害者の芸術文化に関する

取組が数多く展開されました。「2017ジャパン×ナントプロジェクト」もその一つです。文化芸術創造都市であるフランス・ナント市において日本の障害者の芸術文化はどのように受け止められたのでしょうか。また、他国の実践を聞くことで、その固有性や共通性を探ってみたいと思います。

2.9

| 2月9日[金] |

平成29年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業実践報告会

平成26～28年度に実施された「障害者の芸術活動支援モデル事業」では、全国12か所で、障害のある作者やその家族、障害のある人たちの創作活動を支援する人たちを支える様々なプログラムが実施されました。

それらの積み上げられたノウハウを全国に普及していくことを目的として、今年度は22都道府県(23団体)で「障害者芸術文化活動普及支援事業」が行われています。本実践報告会では、47都道府県での実施に向けた現状と課題、展望について厚生労働省の担当官を迎え、事業の普及を担う実施団体とともに議論します。

13:15-13:40 事業説明

「障害者芸術文化活動普及支援事業」について

大塚千枝[厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室 障害者芸術文化活動支援専門官]

13:45-15:15 実践報告、ディスカッション

障害者芸術文化活動支援センターの普及の実際

社会福祉法人ゆうゆう(北海道・北東北ブロック)
社会福祉法人愛成会(南関東・甲信ブロック)
社会福祉法人みんなでき(東海・北陸ブロック)
社会福祉法人グロー(全国連携事務局[美術])
社会福祉法人大阪障害者自立支援協会(ビッグ・アイ)(全国連携事務局[舞台芸術])
厚生労働省

参加費無料

主催:社会福祉法人グロー(GLOW) 助成:平成29年度厚生労働省 障害者芸術文化活動普及支援事業
※詳細は裏面をご覧ください

平成29年度 障害者表現活動の地域拠点づくりモデル事業

|1| 障害者舞踊教育のパイオニア、舞踏家・中嶋夏によるワークショップ&トーク

15:30-17:30 「心と身体の学級」

講師:中嶋夏[舞踏家/舞踏集団「霧笛舎」主宰/「心と身体の学級」主宰/障害者舞踊教育]
※障害の有無にかかわらず、どなたでもご参加いただけます。(要予約)

トーク 田口ランディ[作家]×中嶋夏

|2| 2017年フランス・ナントで大絶賛を受けた
「湖南ダンスワークショップ」のダンスパフォーマンス

17:40-19:00 「うみを越えたトリックスター」

ダンス:湖南ダンスワークショップ/北村成美[ダンサー/振付家]
音楽:坂田明[サクソ奏者]、谷川賢作[ピアニスト]、高良久美子[パーカッション奏者]、吉田隆一[バリトンサクソ奏者]

アフター
トーク 小室等[ミュージシャン/糸賀一雄記念賞音楽祭 プロデューサー]、
坂田明[サクソ奏者]、北村成美[ダンサー/振付家]ほか

参加費無料

主催:社会福祉法人グロー(GLOW)
助成:平成29年度文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業(先進的文化芸術創造活用拠点形成事業)

2.10

| 2月10日[土] |

アール・ブリュット 国

9:30-10:00

「共融地点」における日本と中国のアール・ブリュット



石岡亜希子 [「共融地点」展キュレーター]

石岡氏は社会学的視点から、中国のアール・ブリュットに関する調査研究を行っています。日本のアール・ブリュットに魅了され、中国のアート・スタジオやギャラリー等へ通い始めて3年、この分野の理解と貢献に努めており、「共融地点」と題した本展に込めた思いについて語ります。

10:00-10:55 | 特別報告1 | 中国 北京

中国「素」アートの現状

サミー・イーユエン・リウ

[Tabula Rasa Gallery ディレクター]

専門的な芸術教育を受けたことはないが、創作を心から愛し、なおかつ長期間創作を続けている人によるアートを、サミー氏は「素」アートと定義しました。今回は、「素」アート紹介の場として、同氏が取り組む「Almost Art Project」についてお話しいただきます。



10:55-11:50 | 特別報告2 | タイ バンコク

Art Brut in Thailand and Japanを開催して



ロザリーナ・アレキサンダー

[The Rainbow Room Foundation 代表]

2017年3月にタイのチュラロンコン大学で行われたアール・ブリュット美術展で日本側とパートナーシップを組んだThe Rainbow Room Foundation代表に、展覧会の感想と共にその後の動向についてお知らせいただきます。

12:45-13:40 | 特別報告3 | インドネシア ジャカルタ

自閉スペクトラム症者のアトリエ活動について

ティモティウス・スワルシト

[アートアドバイザー/セラピスト]

スワルシト氏がアートアドバイザーを務めるハディプラナアートセンターでは、自閉症の人のためのアトリエが開かれ、ユニークな作品が生まれています。氏によるアートを通じた支援の実践や、文化的な取り組みについてお話しいただきます。

助成:独立行政法人国際交流基金アジアセンター



同時開催「アメニティーフォーラム22」

障害のある人のより豊かな地域生活を推進していくための全国的なネットワークを作ることを目的に毎年行われ、全国から1,500人を超える人たちが参加されます。また同時開催でアール・ブリュットの展覧会やバリアフリー映画祭も開催され、地域からも多くの参加者を迎えています。22回目を迎える今年は2018年2月9日から11日まで3日間にわたり、びわ湖大津プリンスホテルで開催されます。

主催：アメニティーフォーラム実行委員会、NPO法人全国地域生活支援ネットワーク 共催：社会福祉法人グロー（GLOW）

ABIIF 2018

際フォーラム 2018

13:40-14:35 | 特別報告4 | アメリカ ミシガン州

ディスアートの芸術活動と日本でのプロジェクトについて



ジル・ヴィン

【ディスアート共同設立者・共同エグゼクティブ
ディレクター／医療ソーシャルワーカー】

当事者たちが主体的に芸術活動を行うディスアートの取り組みの報告と共に、来年度計画をされている日本とのアール・ブリュット展の概要についてアメリカ側の責任者の方から事業説明をしていただきます。

14:40-15:55

福祉的視点と障害者の芸術作品市場

太下義之 【三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター
主席研究員・センター長／独立行政法人国立美術館理事】

田中太郎 【大阪府福祉障がい福祉室自立支援課】

熊本豊敏 【一般社団法人障がい者アート協会 代表理事】

聞き手：木元聖奈 【社会福祉法人グロー（GLOW）】

障害者の文化芸術活動の推進が期待され、多様な取り組みが広がりを見せ始めているなかで、障害者の芸術作品の福祉的視点を入れたマーケットの可能性について議論し、国内の活発な取り組みについての報告を行います。

16:00-17:15

2017ジャパン×ナント プロジェクト

日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展の評価について

パトリック・ギゲール

【フランス国立現代美術センター
リュウ・ユニック館長】

保坂健二郎

【東京国立近代美術館
主任研究員】



フランス・ナント市で行われている、日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展のキュレーションと出展作品について紹介するとともに、この展覧会の意義や評価について語り合います。

主催：アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会

助成：平成29年度文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
独立行政法人国際交流基金アジアセンター（プログラム・特別報告3）

通訳あり 同時通訳機器貸出料金：500円【フォーラム参加者は無料】

展覧会及び9日、10日のプログラムに関するお問い合わせ

社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～ 法人本部企画事業部
TEL | 0748-46-8100 FAX | 0748-46-8228 <http://www.no-ma.jp>

2.11 | 2月11日(日) |

アール・ブリュットネットワークフォーラム2018 ～つながるアール・ブリュット～

9:00-10:30 開会セッション

オリンピック・パラリンピック文化プログラムについて ～2017ジャパン×ナント プロジェクトの軌跡～

青柳正規【アール・ブリュットネットワーク会長／前文化庁長官】

ポール・ピヨドー【ナント国際会議センターシテ・デ・コングレ 前館長】

野澤和弘【毎日新聞論説委員】

三日月大造【滋賀県知事】

松野哲【北海道岩見沢市長】

10:35-11:15 セッション1

日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展について

田湯ひろみ【KOMOREBI展 出展者の家族】

平野智之【KOMOREBI展 出展者】

朝比奈益代【クラフト工房LaMano／KOMOREBI展 出展者の支援者】

聞き手：小林瑞恵【KOMOREBI展 日本側キュレーター／社会福祉法人愛成会 副理事長】

11:15-12:00 セッション2

障害者がつなぐ国際交流～ミシガンからの報告～

クリストファー・スミット【ディスアート 代表】

上山輝幸【滋賀県観光交流局国際室長】

12:00-13:15 セッション3

美術館とアール・ブリュット

村上哲【熊本県立美術館学芸課長】

盛本直美【岩手県立美術館主任専門学芸員】

山崎利行【東京都生活文化局文化振興部事業計画担当課長】

聞き手：田平麻子【滋賀県立近代美術館主任学芸員】

オブザーバー：青柳正規【アール・ブリュットネットワーク会長／前文化庁長官／
山梨県立美術館館長】

近年、国内外でアール・ブリュットの展覧会が行われるようになってきました。国内の美術館でもアール・ブリュットの展覧会や障害のある方の作品収集を行うことになったきっかけや課題などについてお話しいただけます。

14:15-15:45 アール・ブリュットネットワーク会員交流会

アール・ブリュットに関わりのある有識者等にも参加いただきながら、会員同士が情報・意見交換を行い、会員同士のつながりや交流を促進します。

参加費無料

主催：アール・ブリュットネットワーク 【事務局：滋賀県、社会福祉法人グロー（GLOW）】

アール・ブリュットネットワークフォーラム2018に関するお問い合わせ

滋賀県民生活部文化振興課

TEL | 077-528-3340 E-mail | binoshiga@pref.shiga.lg.jp

石岡亜希子

Akiko Ishioka

[「共融地点」展キュレーター]

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士課程在籍。2015年より、北京・Tabula Rasa Gallery主催「Almost Art Project」を調査。社会福祉法人愛成会主催「NAKANO〜街中まるとと美術館〜アール・ブリュット人の無限の創造力を探求する2017〜」の中国コーディネーターを務める。2017年度、上海画廊(Shanghai Gallery of Art)にて、上海・WABC主催「芸途基金会原生芸術展」の日本側キュレーターを担当。



サミー・イーユエン・リウ

Sammi Yiyuan Liu

[Tabula Rasa Gallery ディレクター]

北京・Tabula Rasa Gallery共同創設者兼エグゼクティブ・ディレクター。ロンドン・サザビーズ・インスティテュート・オブ・アート現代美術コース修了。The Art Newspaper Chinaシニア・ディレクターとして、メディアに長年従事。「上海Contemporary Art Fair」、「Affordable Art China」等のプロジェクトに携わり、ゲリラ・アート展も多数キュレート。2015年に「Almost Art Project」を立ち上げ、毎年開催している。



ロザリーナ・アレキサンダー

Rosalina Alexander

[The Rainbow Room Foundation 代表]

経営管理とマス・コミュニケーションを学び、広告業界に10年間、人材育成分野で15年間働く。2002年から2005年の間、タイで初の母乳育児の支援団体Nom Mae Groupにてディレクターを務める。現在は、自身が共同出資者として設立した、The Rainbow Room Foundationで代表を務め、障害児の保護者が、情報や経験を共有し励まし合う仕組みを作ること、エンパワメントすることを通して、障害のある人に対しての社会的な意識啓発の活動に取り組んでいる。



ティモティウス・スワルシト

Timotius Suwarsito

[アートアドバイザー/セラピスト]

ハビブプラナアートセンター(ジャカルタ市)内にある、自閉スペクトラム症の子ども・青年を対象としたアトリエの講師。この他2か所で同様のアートスクールを担当するほか、小学校の美術講師も務める。アートスクールに通うことが難しい子どもの自宅に訪問してサポートすることにも取り組み、さらには独学で学んだ自身の絵画制作もしている。インドネシアで初のアール・ブリュット展を開催しようと企画。



ジル・ヴィン

Jill Vyn

[ディズアート共同設立者・共同エグゼクティブディレクター/医療ソーシャルワーカー]

ミシガン大学にてソーシャル・ワークを学び、修士課程を修める。2011年、ミシガン州グランドラビッツ市にて、子どもたちにスペイン語学習の場を提供する団体、Mosaic Language Groupを共同設立。2013年、リーダーシップ・グランドラビッツの研修に参加する。ディズアートとの協働も含めて、彼女が実践してきたことは、グランドラビッツ市のコミュニティにおける、アクセシビリティやダイバーシティ、ソーシャル・インクルージョンに関わる議論の推進に貢献している。



太下 義之

Yoshiyuki Oshita

[三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター 首席研究員・センター長/独立行政法人国立美術館理事]

公益社団法人日展理事、公益社団法人静岡県舞台芸術センター評議員、公益社団法人全国公立文化施設協会専門委員会委員、文化経済学会<日本>監事、文化政策学会理事、デジタルコンテンツ学会評議員、文化審議会文化財分科会企画調査WG副座長、観光庁「世界に誇れる広域観光周遊ルート検討委員会」委員、東京芸術文化評議会委員、沖縄文化活性化・創造発信支援事業(沖縄版アーツカウンシル)評議員(〜2017年3月)、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー、アーツカウンシル新潟アドバイザーなど。



熊本豊敏

Toyotoshi Kumamoto

[一般社団法人障がい者アート協会代表理事]

大学卒業後、小売業の他いくつかの職種を経た後、2015年7月に、障がいがありながらも絵の上手だった自身の息子に導かれるように、障がい者アートの事業化を考えて起業。その4ヶ月後、一般社団法人障がい者アート協会を立ち上げ、障がい者アートに特化したオンラインギャラリー「アートの輪」をベースに、「一点でも多くの作品を世に出し、一人でも多くの人にその作品を知ってもらおう」という活動に取り組みながら、自分たちの障がい者支援の仕組みを構築すべく活動して現在に至る。



パトリック・ギゲール

Patric Gyger

[フランス国立現代美術センター/リュウ・ユニック館長]

歴史家、作家、キュレーター。1999年から2010年にかけて、「ユートピア」をテーマにした人間の文化・芸術をコレクションしている「メゾン・ド・リュール」(空想科学博物館・スイス)の館長を務める。展覧会やイベントの企画、美術評論、研究、出版を幅広く行っている。2011年より現職。2017ジャン・パンナントプロジェクトの主催者の一人であり、日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展キュレーター。



保坂健二郎

Kenjiro Hosaka

[東京国立近代美術館 主任研究員]

慶應義塾大学大学院修士課程(美学美術史学)修了。近現代美術の専門家の立場から、アール・ブリュットの研究、評価に携わる。2012年〜しがアール・ブリュットアドバイザー、2015年〜「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会」(文化庁、厚生労働省共催)構成員、2015〜17年東京芸術文化評議会専門委員(アール・ブリュット検討部会)を務める。



Photo by Keizo Kioku

平成29年度障害者芸術文化活動普及支援事業実践報告会 | 登壇団体紹介 |

2月9日[金] 13:15-15:15

この事業は、障害のある人や、障害のある人たちの芸術文化活動(美術、演劇、音楽など)を支援する人々を支える取り組みを全国に普及することを目的としています。今年度は全国22都道府県に「障害者芸術文化活動支援センター」が設置され、著作権保護や美術・舞台芸術に関する相談対応や研修の開催などが行われています。

平成29年度実施都道府県

- 北海道・北東北 | 北海道、青森県、秋田県
- 南東北・北関東 | 宮城県、栃木県
- 南関東・甲信 | 埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県
- 東海・北陸 | 新潟県、愛知県
- 近畿 | 滋賀県、大阪府、奈良県、和歌山県
- 中国・四国 | 広島県
- 九州 | 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県



※北海道、新潟県はブロック支援担当のみ

社会福祉法人ゆうゆう

地域に根差した福祉アプローチで「地域を創る」ことを目指し、障害の有無、世代や立場を越え地域全体で住民が支え合う仕組み作りを模索・提案し、枠組みにとらわれない活動実践を通して「福祉はクリエイティブ」を確信しています。芸術活動では、障害福祉10団体で「北海道アールブリュットネットワーク協議会」を設置。当麻かたるべの森との2事務局4園域体制で3,000ヶ所アンケートを皮切りに、訪問調査、展示会等を通じ、北海道の裾野を広げ、担い手を育てる活動を展開しています。

社会福祉法人愛成会

東京都中野区で約60年の歴史を重ねており、障害のある方の意思が大切にされ、個性を發揮しながら、地域に根づいて生活することのできる環境づくりを大切に支援しています。2004年からは、地域に暮らす障害のある方を中心とした創作活動の場であるアリエpangaea(ぱんげあ)を展開。2010年からは、中野周辺の各商店街の方々から協力を得て「街中を大きな美術館に!」とアール・ブリュット作品で街を彩る催しを毎年行い、芸術文化を国内外に発信しています。

社会福祉法人みんなできる

2002年設立当初(当時「NPO法人りとらいふ」)から障害のある方の余暇活動支援として、上越地域の障害のある方やその周辺に住む児童向けに「アートクラブ」を定期開催してきました。社会福祉法人移行後は事業所内で制作された作品の商品化を始め、同時に著作権保護に関する取組(成年後見人や契約行為に関すること等)について弁護士を交えて検討を行ってきました。2014年、法人内に「障害者高齢者表現・造形活動プロジェクト」を立ち上げ、障害だけでなく高齢分野の表現活動も推進しています。

社会福祉法人大阪障害者自立支援協会(ビッグ・アイ)

障害の種別や程度にかかわらず、健常者と同じような暮らしができる支援を目指して事業を行っています。「ビッグ・アイ共創機構」の代表団体として国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)では、障害のある人の芸術文化活動、参加の支援事業を2011年より行っています。障害のある人の表現活動、鑑賞の機会の提供、国際交流など、誰もが参加できる環境づくりを行うほか、それを広く社会に波及し芸術と福祉を繋ぐ役割に取り組んでいます。

社会福祉法人グロー

2014年4月、「滋賀県社会福祉事業団」と「オープンスペースレガー」とが一つになり、社会福祉法人グロー(GLOW)が誕生しました。障害者の芸術文化活動に関する取組は、2001年、企画事業部の設置を機にスタートしました。2002年から糸賀一雄記念賞音楽祭を毎年開催し、2004年にはボーダレス・アートミュージアムNO-MAを開館。2012年にはアール・ブリュットインフォメーション&サポートセンターを開設して、障害者の芸術文化活動に関する相談支援や人材育成等を行っています。

お問い合わせ

社会福祉法人グロー〜生きることが光になる〜
 法人本部企画事業部
 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837番地2
 TEL | 0748-46-8100
 FAX | 0748-46-8228
 MAIL | artbrut_info@glow.or.jp